



## 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

### 1. 福島第1原子力発電所の現状

第1回福島第一廃炉国際フォーラムが、経済産業省資源エネルギー庁と原子力損害賠償・廃炉等支援機構の共催で、2016年4月10日、11日にスパリゾートハワイアンズ（いわき）において開催され、澤田共同代表が参加しました。

2日間で15カ国、641名が出席した、国際フォーラムの結果概要は、以下に公表されています。

[http://ndf-forum.com/common/data/pdf/result\\_summary\\_2.pdf](http://ndf-forum.com/common/data/pdf/result_summary_2.pdf)

開催初日に「廃炉への取り組みと地域社会とのコミュニケーション（海外事例と福島への取り組みの紹介）」のテーマでセッションがあり、2日目には「リスク評価」「燃料デブリ取り出し」「放射性廃棄物対策」といった廃炉技術に関連したセッションがありました。また2日目の4月11日は、震災から5年1ヶ月の月命日であり、14時46分にプレゼンテーションを中断して1分間の黙祷を参加者全員で捧げました。

2日間を通して、廃炉の過程では、作業内容の透明性を保ち、地域住民、事業者、規制当局（原子力規制委員会:日本）という関係者間（stakeholder）で信頼関係を築き上げていくことの重要性が、浮き彫りにされました。

地域住民の立場で日本以外には、英国セラフィールド原子力発電所の立地地域である西カンブリア住民グループ（英国コーブランド市長）と下院議員に、約60年にわたる経験、周辺諸国への影響について映像を交えて報告していました。

東京電力福島第1発電所の4つの事故炉には、事故当時、燃料（核燃料集合体）が残っており、格納機内のデブリの状態が明らかではないので、格納機が

爆発したチェルノブイリとは廃炉行程が異なります。そのため過去の多くの事例を参考にする必要があります。2日目にハンガリー パクシュ原子力発電所、米国 スリーマイルアイランド2原子力発電所（CAネギン&アソシエイツ）、ハンフォードサイト（パシフィック・ノースウエスト国立研究所）、英国 セラフィールド株式会社等から廃炉の実際について、報告されました。このうち、米国ワシントン州ハンフォードサイトは、長崎に投下されたプルトニウム原爆ファットマンの材料であるプルトニウムを始めとする核兵器材料を45年間生産し、1989年廃炉が決定されました。9つのプルトニウム生産炉をはじめとする周辺施設の廃炉、面積1500平方キロメートルの浄化と近くを流れるコロンビア川周辺の除染過程では、市民や地域が計画策定時から参加をして、リスク・インフォームド戦略を進めたことが報告されました。そして放射能汚染水が2億1,000リットル、タンクに貯蔵されて処理を待っているという課題も提示されました。

一方、5月26日の「第30回廃炉・汚染水対策チーム会合・事務局会議」では、福島第1原子力発電所の汚染水の増加を抑える目的で建設された1～4号機を囲んだ凍土遮水壁の、海側の全面（690メートル）と北側の15%（130メートル）、山側部分の先行凍結箇所：凍結管間隔が広く凍りにくい箇所等66%（290メートル、77カ所）の凍結を3月31日に開始しましたが、凍結範囲の約1割の地中の温度が0℃に達せず、凍結していないことが報告されました。

### 2. 健康手帳を贈りました

2013年3月から、18歳で児童養護施設を巣立つ子どもに贈ってきた「健康手帳」、今年の3月で4年目になりました。

健康手帳電子化システムを導入している7施設のうち退所者のいる6施設中、改築中の1施設を除き、電子版からプリントアウトした「健康手帳」を卒園生31名、そして施設から家庭に戻って家族と生活をする家庭復帰の子ども16名に贈る事ができました。

電子化したことによって、健康手帳のプリントアウトが容易にできるようになったことで、当初は考えていなかった活用法が生まれました。家庭復帰の子どもの施設で生活している間の成長、健康状態、か



かった病気、予防接種などの情報を、「健康手帳」に印刷して渡す事で、入所中の子どもの生活を家族と共有するのに役立っています。

3月には健康手帳が贈れなかったいわき育英舎は、改築後に、過去4年間に施設を退所した元園生を訪問して、「健康手帳」を贈る予定です。

一方、健康手帳電子化システムを導入していない

福島愛育園では、5名の卒園生に手書きの「健康手帳(紙版)」を贈呈し、施設を出て自立した生活をしてからの健康管理について『放射線のこと・健康管理のこと』というタイトルで、澤田共同代表が講師となり健康教育の時間を持ちました。‘放射能のイメージは?’ ‘甲状腺の検査は何ですのでしょうか?’ ‘放射能は健康にどんな影響を与えるのでしょうか?’ ‘ずっと健康管理をしていくことが大事’などの話をして、最後に「どうして甲状腺検査をずっと受ける必要があるのでしょうか?」と再び質問したところ、「放射線がたまっているか定期的にみた方がいいから」「内部被曝によって甲状腺がヨウ素(放射能)を取り入れ、ガンになる可能性があるから。またいつなるかわからないから」という答えが書かれています。社会に出ることを意識する時期に健康について一緒に考える時間を持つこの活動は、施設からの提案ではじめましたが、これからも継続していきたいと考えています。

2015年4月～2016年3月の1年間で、紙版を含め「健康手帳」を贈った人数は、55人になります(下の表を参照してください)。

この中には、2011年3月に福島県の児童養護施設に在籍していて卒園した後に「健康手帳(紙版)」を贈った人も含まれています。このうち2名には、昨年秋に実施した甲状腺エコー検査を受けに来た時に、検査の結果を健康手帳に貼って渡しました。

もう1名には、元の担当職員が訪問して届けてくれました。アフターケアの一環として昨年からは開始した活動で、施設にいた時に担当していた職員が、卒園生の生活の場を訪ねて、健康手帳を手渡しています。本会は施設職員の交通費を補助していますが、「健康手帳には関心は薄いようだったが、甲状腺エコー検査を受ける意味や重要性について話したところ、検査の通知が数回届いたが受けずにいた。次の通知が届いた際に検査を受けるように促して納得をしていた」というレポートが職員から届きました。

表. 2015年4月～2016年3月 健康手帳の贈呈数(人)

	2016年 3月卒園生	2016年 家庭復帰児童	2015年以前 の卒園生	甲状腺エコー 受検卒園生	合計
健康手帳電子版(プリントアウト)	31	16	0	0	47
健康手帳(紙版)	5	0	1	2	8

### 3. 体温計とバンドエイドも一緒に贈りました

4月から施設を出て、一人暮らしをする卒園生には、「健康手帳」と一緒に体温計とバンドエイドを贈り、体温計には「甲状腺検査は年に1回受けましょう」とテプラを貼りました。写真(右下)のような電車の形の体温計、そして女の子には婦人体温計を贈り、その使い方についても施設の担当職員が説明をしました。さらに、県外で仕事をする人には、これから生活する県で甲状腺検査を受けられる病院と連絡方法をまとめて、健康手帳と一緒に渡しました。

2016年6月6日に開催された、第23回「県民健康調査」検討委員会で報告された甲状腺検査の受診率は、18歳～22歳が24.4%となっています(本格検査、2巡目平成26～27年度集計)。2～7歳78.0%、8～12歳92.9%、13～17歳86.5%で、小学校、中学校、高校は学校単位で検査を実施して

いるので、高い受診率ですが、18歳以上になると1/3以下の人しか受けていません。

受診しない理由は、検査を受ける方法がわからない(特に県外在住者)、1回受けたから大丈夫と思っっている、就職したばかりで土日以外の休みがとれず検査に行けない、等の多様な理由が考えられます。児童養護施設の卒園生は、県内に家族がいても、甲状腺検査を受けるように家族から促されることが少ない事が考えられます。そのため本会では、2013年から施設毎に甲状腺エコー検査をする時に職員から卒園生にアナウンスをしてもらい、来園した人には交通費も補助しています。このように18歳以上の甲状腺エコー検査を受けやすくする活動を展開しています。加えて、今年からは、必ず使う体温計とバンドエイドにキャッチコピーを付けて甲状腺検査の必要性を思い出せるようにしました。



第12号

## 4. 尿セシウム検査と食品放射能測定を実施しました

昨年に続き、尿セシウム検査と同時期に、陰膳方式で施設の食事の食品放射能測定を実施しました。（詳細はニュースレター11号P2をご覧ください。ホームページから過去のニュースレターが閲覧できます。）

尿から排泄される放射性物質の内部被曝経路を探るために、尿中のセシウム検査を行うのと合わせて、摂取する食事の食品放射能測定を行いました。地域小規模ホームを含め、全ての食事が検出下限以下でした。これらの放射能測定は、信頼できる検査

機関でゲルマニウム半導体検出器を用いて、検出下限を可能な限り下げて実施しています。そのため、尿検査の費用は18,000円、オムツの場合は48,000円、食品の測定費用は1食あたり8,500円を費やしています。（価格は税抜き）

これらの検査は、1回ではなく推移をみて結果の分析をしていく必要があります。継続して検査をするためには、皆様からのさらなるご協力が必要になります。引き続き、ご支援を賜りますようお願いいたします。

## 5. 勉強会を開きました

昨年度、2回実施した”発達障がいを持つ子どもの特徴と対応“に関する勉強会を、5月19日に堀川愛生園センターホールで開催しました。講師は塩飽副代表で、堀川愛生園、森の風学園ほか21名の参加者が集いました。

児童養護施設の約1/3の子どもが何らかの障害があるとされ（「社会的養護の課題と将来像の実現に向けて」厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課）、発達障がいの子どもは少なくありません。この子どもたちの特徴を理解して、二次障害を起こさないように具体的な方法を学びました。

「今さら聴けないと思う基本的な知識の整理からWISC-IVなど最新の知識が学べた」「具体的なポイント毎に対処法の話が聞けた」と毎日子どもたちと接する職員から高い評価が得られました。

今後は、子どもたちの特徴を大切にしながら、低線量被曝下で生活する事によって起こりうる健康被害を予防する方法、また甲状腺エコー検査を定期的に受診する方法を、どのように子どもに伝えるかを、施設職員と一緒に考えていける勉強会に発展させたいと考えています。



## 6. 2016年総会を開催しました

2016年度第5期定時総会を1月31日に日本ルーテル教会 アンカーホールにて開き、議決権のある正会員25名のうち書面議決を含めると20名の出席でした。本年度の事業計画・予算の他、定款改定によって正会員、賛助会員共に会費が1,000円から3,000円への変更が承認されました。また、会員を増やすキャンペーンを展開することも審議されました。

総会后に“4年間の活動報告と音楽の会“を開催しました。40名の方にお集まりいただき、丸共同代表の司会により、前半は澤田共同代表が写真を中心にした活動報告、神戸理事（青葉学園常務理事）、齋藤監事（福島愛育園園長）が現場からの報告をしました。後半は音楽家の丸尾めぐみさんによるピアノ演奏と歌、最後の1曲では丸尾さんの音楽仲間の金田賢一さん、福山竜一さんの飛び入り出演もありました。



## 7. 会費納入、寄付・未使用切手などのご寄付を頂いた皆様(敬称略 順不同)

2015年11月28日～2016年6月10日

ICU高校キリスト教活動委員会、愛泉会、萩郷リサイクルバザーグループ、唐池学園有志、唐池学園 なのの家  
 3.11以後を生きるヒント編集委員会、名古屋キリスト教協議会、名古屋YWCA、2001オリーブの木、大泉教会  
 下落合教会、下落合教会学校、名古屋東教会、西千葉教会、南山教会、日本ルーテル教団クリスマスの贈り物実行委員  
 会、はらからの歌声、ぶどうの会、青木 雅子、秋山 道子、足立 悦子、阿久澤 麻理子、荒川 めぐみ、荒田 二郎  
 安藤 敏彦、池口 佳子、池住 義憲、池田 香里、池田 むつみ、石川 信克、石川 福江、石原 潔、石原 昌子  
 井手 初穂、伊藤 信彦、犬塚 茂生、猪熊 京子、今泉 郷子、入江 芽吹、上田 睦子、牛尾 幸世、臼井 美帆子  
 内丸 ちづ子、蝦名 美智子、遠藤 和子、遠藤 真弓、大島 庸子、大塚 哲朗、大橋 正明、大畑 美和子、大町 敬子  
 小笠原 保子、岡田 友子、岡本 玲子、沖 菜穂子、荻原 浩、小熊 三重子、小澤英輔、尾関 静枝、オダ ミノリ  
 葛西 登喜子、加島 春来・美枝、数間 恵子、加園 貴代子、片岡 安子、加藤 典子、金子みどり、金田 賢一  
 川北 かおり、喜多野 由希、木戸 晶子、木下 晃子、木下 逸枝、木村 泰幸、工藤 美子、神戸 信行、小松 美智子  
 近藤 真由美、齋藤 久夫、齋藤 みき子、齋藤 泰子、澤田 和美、佐野 尚子、佐野 むね、澤田 耕治、澤田 稔・保子  
 志賀 由美、渋江 理香、嶋津 徹、島村 陽子、清水 清美、白鳥 まゆみ、塩飽 仁、菅沼 勝子、杉村 太郎、杉村 恵子  
 鈴木 千衣、鈴木 宏幸、鈴木 幹子、鈴木 亮、鈴見 郁子、銭谷 美幸、高木 史江、高橋 梓、高橋 敦子、高橋 千治  
 高橋 明男、田上 文子、高柳 允子、高山 喜美子、田口 恵美子、武井 めぐみ、竹内 由美子、武田 祐子  
 立川 明朗、立川 洪介・満里、田中 とよ美、津山 春香、津山 夏維、中島 隆宏、中島 祐子、中田 豊一  
 永田 耕治・栄子、長畑 左樹子、永見 亜矢子、中山 珠枝、名取 智子、西口 徹、橋場 みき子、畑野 研太郎  
 馬場 隆、原岡 潔、原瀬 昌久・光子、原瀬 耕・里・岳、原 康子、福島 洋子、福山 竜一、藤田 武夫、別宮 千織  
 星 衣里江、細谷 たき子、本多 勝次、本田 裕子、前島 忻治、前村 恵、舛岡 泉、増田 高子、松平 信子、松村 芳陽  
 丸 光恵、丸尾 めぐみ、間野 聡子、三澤 篤子、三谷 美香、三原 翠、三宅 祐子、宮田 美恵、宮原 多枝子  
 村川 佳代、村田 貴志子、村田 恵子、守屋 正子、門馬 美智子、安間 ちょう子、柳澤 千恵子、八尋 尚子、山懸 敦子  
 山崎 慶子、山本 千春、湯浅 資之、若本 美彌子、匿名希望2名

## 8. 本会の活動に対して下記の団体から助成を頂きました (2016年5月現在)

- 日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策  
健康手帳電子化システムおよび拡張版開発支援、健康手帳電子化システム機材導入経費
- 全国児童養護施設協議会、第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会  
健康手帳作成事業、電子版施設導入
- 公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会  
児童養護施設の個人被曝線量計(クイクセルバッチ)測定事業
- タケダ・いのちとくらし 再生プログラム  
福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握 フェーズ2：卒園生甲状腺エコー検査の交通費援助など
- 公益財団法人公益法人協会「草の根支援組織応援基金」

■ このニュースレターは草の根支援組織応援基金のご寄附を頂いて印刷しています ■



### 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田和美 (福島事務所 事務局長)

丸 光恵 (甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授)

副代表 塩飽 仁 (東北大学大学院 小児看護学 教授)

ホームページもご覧ください <http://www.fukujidou.org>

事務所住所・連絡先 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブC203  
 e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話・FAX: 024-573-2939

♥略称 ICA福子(いかふくこ) Foster Care for **Infants, Children and Adolescents** in FUKUSHIMA

ご支援先

♥ゆうちょ銀行

店名: 二二九店 (店番号229)

種類: 当座預金

番号: 02220-2-118684

名称: 福島児童養護施設の子どもを考える会

♥大東銀行

店名: 福島西支店(店番号047)

種類: 普通預金

番号: 1303901

名称: 福児童 代表 澤田和美

♥三井住友銀行

店名: 白山支店

種類: 普通

番号: 6854164

名称: 福児童 代表 澤田和美

本会は様々な団体の助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。  
 これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、引き続きご支援をお願い申し上げます。未使用切手による寄附も大歓迎です。